



萌木

12月



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和4年12月9日発行

～自尊・立志・感動～

いのちと心の教育月間での学び

校長 山田 勝

今月12月は、調布市が市独自の取り組みとして定めている「いのちと心の教育月間」です。

6月、11月に東京都が進める「ふれあい月間」と共に、調布市の公立学校が大切にしている取り組みです。

「日ごろから大切にしている自他の生命を尊重する心や、より深い生命に対する畏敬の念を育てる機会とする。」ことが調布市の「いのちと心の教育月間」の目的です。この目的は、私たちは日ごろから取り組むことでもあります。機会を作り、その当たり前のことによりしっかりと取り組む意識を高めることができるようにしていきたいと考えます。

今年は、別途ご案内の通り保護者の方にも参観いただきながら、生命尊重を主題とした道徳の授業に全学年で取り組みます。成長段階に応じた主題設定をし、より、一人一人が生命について考え尊重する意識を持つ機会となるよう取り組みます。

また、七中ボランティアネットワーク（VNW）の呼びかけで、落ち葉清掃にも取り組みます。枝を伸ばし葉が茂り、そして散る。そのような自然の摂理に近くで意識して関わる機会を持つことでも、様々な生命活動への理解が深まることを期待しています。

一枚のイチョウの落ち葉に触れることで、命を大切にしよう意識する機会ができる。冬の寒い中でも学ぶ機会を作り、自分を成長させ心を豊かにできる。そう考えるだけでも、学びの場がひろがることにわくわくします。

常に意識することが大切な生命尊重について、12月のこの機会に考える機会を設定することで、生徒一人一人がより生命をいつくしむ気持ち・心情を持つことができる取り組みを進めていきたいと思えます。機会を作り、生徒の皆さんにも次のような気持ちを伝えたいと思っています。

いのちと心を大切にするにはどうすればよいのでしょうか。

右手の親指、左ひざといわれると、どこのことを言っているのか、しっかり認識することができます。自分の目で確認することができるからです。胃腸とか肺はどうでしょう。見ることはできませんが、自分の体のこの辺りということはわかります。では、心はどこといわれると、どうでしょう。胸の中ですか、頭の脳ですか。心というものの実態はなかなか意識することが難しいものです。

指先で氷を触って冷たいと感じる気持ちも、好きな歌を聞いてうれしくなる気持ちも、きっと心です。自分が全身で感じ考えるそのものすべてが心と、捉えられるのではないのでしょうか。実態はなかなかつかみづらいけど、確かに自分にも心はあるのです。

自分の心に従って行動することで、人の心を傷つけるということは到底認められる行為ではありません。他人に対しても自分に対しても、です。

心を大切にすることとは、自分の心だけでなく他人の心も大切にすることです。すべての人の心を大切にすることが、すべての人の命を大切にすることにつながるのではないのでしょうか。

いのちと心を大切にすることを考えるとき、このような視点を持ってほしいと思います。

いのちと心を大切にするための一歩として、まず、自分の心を大切に育てることから始めてください。